2013 年 11 月 10 日

RSSC ウィメンズクラブ

2013 活動記録 No8

活動日時	2013 年 11 月 1 日 午前 13 時から 15 時まで
場 所	セントポールズ会館「芙蓉」にて
出席者	8 名
活動内容	**１テーマ：「ガラパゴス　エコツアーに参加して** **―自然との共生を考えるー」** 期間：2013．8.19　～　8.29 **ガラパゴス諸島：**エクアドルに属す県の一つ、南北 300Km 東西 350Km に及ぶ本土より西の海上 900Km に浮かぶ大小 126 の火山島群　人口 2 万 8000 人赤道直下にも関わらず、この時期の平均気温 24 度と涼しいのは南極方面より北上する 2 つの寒流の影響 **ガラパゴス化：**“他の分野や地域などと交流することなく独自の進化・発達を遂げた“携帯電話「ガラケイ」に代表される表現 **自然環境：** 1978 年　世界自然遺産第 1 号に登録された。ダーウィンが進化論を考え付くきっかけとなった動物の進化の過程を観察できる様々な動物の種・亜種の存在、この地域でのみ繁殖する生物の存在、地球の歴史過程を見ることができる景勝地の存在がその指定理由であったが、観光及び開発による自然破壊が進み 2007 年　世界危機遺産として警告を受ける 2010 年　世界自然遺産に再登録 この間に法的整備（自然保護法、ガラパゴス特別法など）、特異な生物や生態があってこそ観光が成り立つとの意識教育と実践、固有生物の保全・復元、帰化生物の排除、固有生物以外の生物侵入防止、住民および観光客による自然影響調査・管理、国立公園事務所による観光管理及び自然教育の普及　などなど **人々の暮らし：** 陸地の９７％は国立公園、住民や観光客が立ち入り可能なのは３％のみ。淡水はほとんど得られない。農業（オレンジ・バナナ・コーヒー）、水産業（鯨、ナマコ、イセエビ）あるが観光業が主。観光客数は年間 18 万人。 使用言語はスペイン語だが、2 か国語以上話せる人多く、陽気で人懐っ。 小学校から大学まである。火力発電所による電力供給。風力発電も開始されている（WWＦやトヨタの資金援助も含）。

感想：

陸上の哺乳類、肉食動物がいないという独自の生態系を持つため、動物も鳥も全く人を怖がらない、近づいても逃げない。むしろ近づいてくるものまで。
とにかく生物と人との距離感が全く感じられない。まさにこれが「自然」本来の姿なのであろう。生態系の頂点に居るのはワシタカ類のノスリ。食卓に来るダーウィンフィンチやペットボトルの蓋をつつくマネシツグミの姿を見ていると生物は学習によって得た行動を子孫に伝えながら、今も進化・発達し続けている。ゾウガメやリクイグアナが絶滅した島があるなどの自然破壊は、乱獲や開発など全て人間によるもの。観光なしには人々の暮らしは成り立たない。自然保護・保全と観光のバランスをどうとっていくのか…。人の生き方が問われている。

（北澤：記）